



1. 第12回 IFMIF/EVEDA 事業委員会の開催

10月10日～11日に第12回 IFMIF/EVEDA 事業委員会が国際核融合エネルギー研究センターにおいて開催された。参加者は、日本側からは、高津議長を含め委員3名と専門家6名、欧州側からは、委員3名と専門家3名、事業チーム員10名、他日欧実施機関から十数名が参加した(図1参照)。3つのサブプロジェクト(加速器施設、リチウムターゲット施設、試験施設)の進捗状況の報告や、2014年の作業計画等について検討、議論、勧告等が行われた。

今回の事業委員会では、工学設計活動が完了したこと、今後加速器機器の据付調整作業のために欧州から派遣される人達の支援体制が確立したこと、共通基金の使用手続きが解決したこと等が確認された。

加速器施設については、欧州からの専門家が原型加速器の組み立て・調整作業に参加することの重要性が指摘され、組み立て・調整のための調達取り決めの署名手続きが早急になされること、今後、原型加速器のスケジュールの影響を与える可能性のある機器の種々の課題についてはプ

ロジェクトチームが両実施機関と協力して工程遅延のリスクを回避するよう勧告がなされた。

リチウムターゲット施設については、最近判明したリチウム試験ループのステンレス配管の減肉と思われる現象について更に解明と対策の調査をするよう両実施機関と事業チームに働きかけがあった。

次回の事業委員会は来年3月19、20日に六ヶ所で開催することとなった。

2. 第13回 IFERC 事業委員会の開催

10月16～17日に国際核融合エネルギー研究センターにおいて第13回 IFERC 事業委員会が開催された。参加者は、欧州側からは、デイビッド・メゾニエ議長を含め委員3名(内2名はTV会議参加)と専門家6名(内3名はTV会議参加)、日本側からは、委員3名と専門家7名、事業チーム員6名、常設委員会、計算法機種選定に係る特別作業グループ(SWG-1)から各1名、書記1名の計、28名が参加し(図2参照)、3つのサブプロジェクト(原型炉設計・研

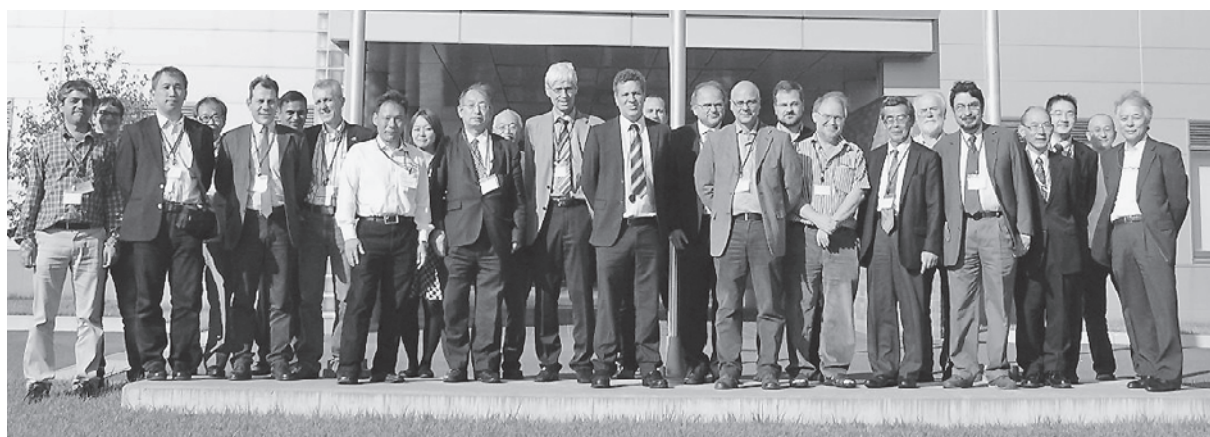


図1 第12回 IFMIF/EVEDA 事業委員会参加者(10月10日国際核融合エネルギー研究センターにて)。

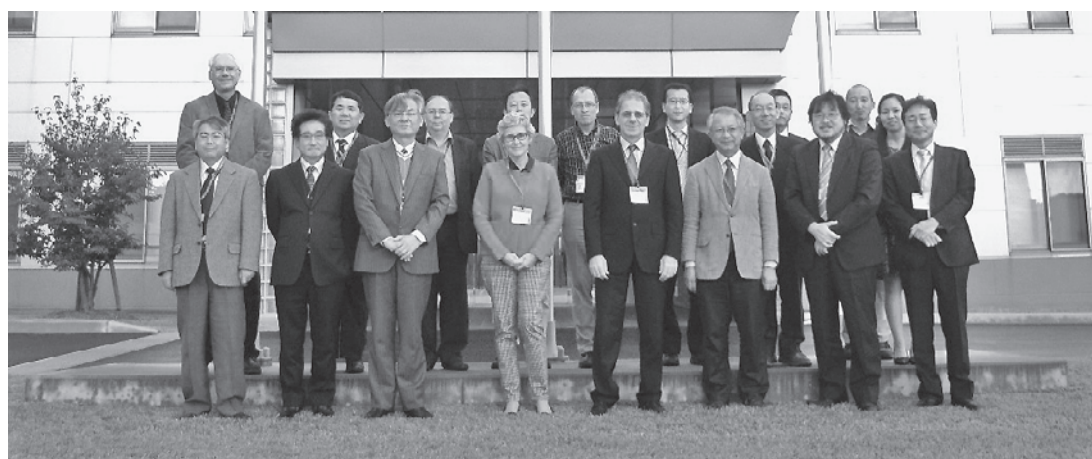


図2 第13回 IFERC 事業委員会参加者(10月16日国際核融合エネルギー研究センターにて)。

究開発、核融合計算機シミュレーション、ITER 遠隔実験)の進捗状況の報告や、2014年の作業計画等について、検討、議論、勧告等が行われた。

今回の事業委員会では、事業長が提案した2014年作業計画及び更新した IFERC 事業計画を運営委員会へ提出し承認を求めることが同意された。

原型炉設計・研究開発では、安全性研究を含む原型炉設計活動、2013年の研究開発の進捗状況等の報告がなされ、既存及び先進的ダイバータ概念検討に関して技術の実現性の検討を始めるよう勧告がなされた。

核融合計算機シミュレーションに関しては、2013年第2及び第3四半期報告、高性能計算機増強に関する状況報告等がなされ、一部課題はあるものの、高性能計算機の高い運用率と第3サイクルにおける利用者の増加が歓迎された。また、第1及び第2サイクルの計算プロジェクトのレビューを組織するよう勧告がなされた。

次回の事業委員会は来年3月17-19日に六ヶ所で開催することとなった。

3. IFMIF/EVEDA原型加速器の入射器の開梱作業が始まる

既に部品が搬入されている IFMIF/EVEDA 原型加速器の入射器については、日欧の共同作業にかかる安全管理体制の調整等で、開梱を初めとして据付調整が遅れていたが、ようやく搬送された各部品の箱の開梱、移動、内容物の確認等の作業が始まった(図3参照)。11月25日から原子力・代替エネルギー庁(CEA)の担当者2名も来所し、作業に立ち会うとともに、来年行われる予定の本格的な据付、調整作業のための詳細な作業手順の確認等を行う予定である。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図3 開梱、搬送、内容物の確認の作業が行われている IFMIF/EVEDA 原型加速器の入射器(左上から、屋外の配電盤の開梱作業、高周波源・電源室で開梱された制御パネル等、加速器室に移設された入射器本体部品等。11月27日、いずれも国際核融合エネルギー研究センターにて。)